

事業評価アンケート

I 趣旨

国際社会青年育成事業は、昭和34年(1959年)及び平成5年(1993年)の当時の皇太子殿下御成婚記念事業を、平成31/令和元年(2019年)のお代替わりを契機に発展させた事業である。また、この事業の目的は「日本と諸外国の青年との国際交流を通じて、青年相互の友好と理解を促進し、青年の国際的視野を広げ、国際協調の精神のかん養と国際協力の実践力を向上させることにより、国際社会で指導性を発揮できる青年を育成するとともに、青年による社会貢献活動への寄与すること」であり、事業参加によりコミュニケーション力や異文化対応力等の能力向上が図られることをねらいとしている。

本年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、交流相手国政府や交流相手国の実施団体と協議の結果、当初予定していた派遣・招へいによるプログラムを中止し、オンラインにて「国際社会青年育成事業(オンライン交流)～Glocal Youth Summit～」を実施することとし、同プログラムにて、基調講演、欧州地域・中南米地域別のグループディスカッション、成果発表会等を行った。

今回、本年度事業の成果を測るため、日本参加青年全員を対象として事業終了時にアンケート評価を行うとともに、事前研修及び事後研修時に、能力向上等に関する自己評価の変化について比較調査を行った。

事業終了時のアンケート評価の数値基準は、5段階評価(評価の高い方から5～1)を基本とした。

また、日本参加青年の自己評価の変化に関する比較調査については、他の調査との比較の観点から6段階評価(評価の高い方から6～1)を基本とした。

II 評価結果

1. 事業目的の達成度

① プログラムの満足度

「【交流プログラム本番】満足度を教えてください。」との問いに対して、日本参加青年は93%が5段階評価の4以上を付け、高い評価であった。

日本参加青年からは「コロナ禍でも世界の青年とつながり、お互いの国や文化を知り、議論ができたことはとても貴重な経験だった。」「オンラインというまだメンバー全員が慣れていない環境下で、しかも短時間、英語で議論

を行う苦労は色々感じたが、国際交流の場で意見交換ができた点で有意義な時間だった。」「全体的に満足だがやはり時間が足りなかったように感じる。」というコメントがあった。

このことから、オンライン上であっても外国参加青年と交流・議論・協働ができた事の意義や価値を感じた青年は多くおり、本結果となったと考察できる。

② 事前研修の満足度

「【事前研修】満足度を教えてください。」との問いに対して、日本参加青年の内、5段階評価の4以上は67%という結果であった。

日本参加青年からは「周りの方のサポートも非常に手厚く中間報告でも適切なフィードバックをいただけたためとても有意義であった。」「普段交流できないような日本の参加者、ファシリテーター、コーディネーター、講演者の方からテーマに関連した話題や現地事情のお話を聞いたのはとても刺激になった。」「オンラインだったため仕方がないのだが、もう少し双方向的なやりとりができればよいと感じた。」とのコメントがあった。

このことから、交流プログラム本番前に、相手国の文化や考え方を学び、プログラムへのイメージを深めることはできたものの、オンラインディスカッションという特徴ゆえ、双方向性の確保に対してさらに高い期待が残ったと考察できる。

③ 事後研修の満足度

「【事後研修】満足度を教えてください。」との問いに対して、日本参加青年の内、5段階評価の4以上は80%という結果であった。

日本参加青年からは「今回得た経験や感じた思いをどのようにこれからいかしていけばいいのか具体例をたくさん提示して下さったため、次の活動につなげていく方法を気付くことができた。」「自分自身で振り返りをするだけでなく、他己評価の時間も設けて頂いたことでしっかりと自分自身の課題を見つけトピックのグループ内で共有する事ができた。これからも事後報告会に向けて本プログラムの魅力を伝えられるように全力を尽くしていきたい

い。」とのコメントがあった。

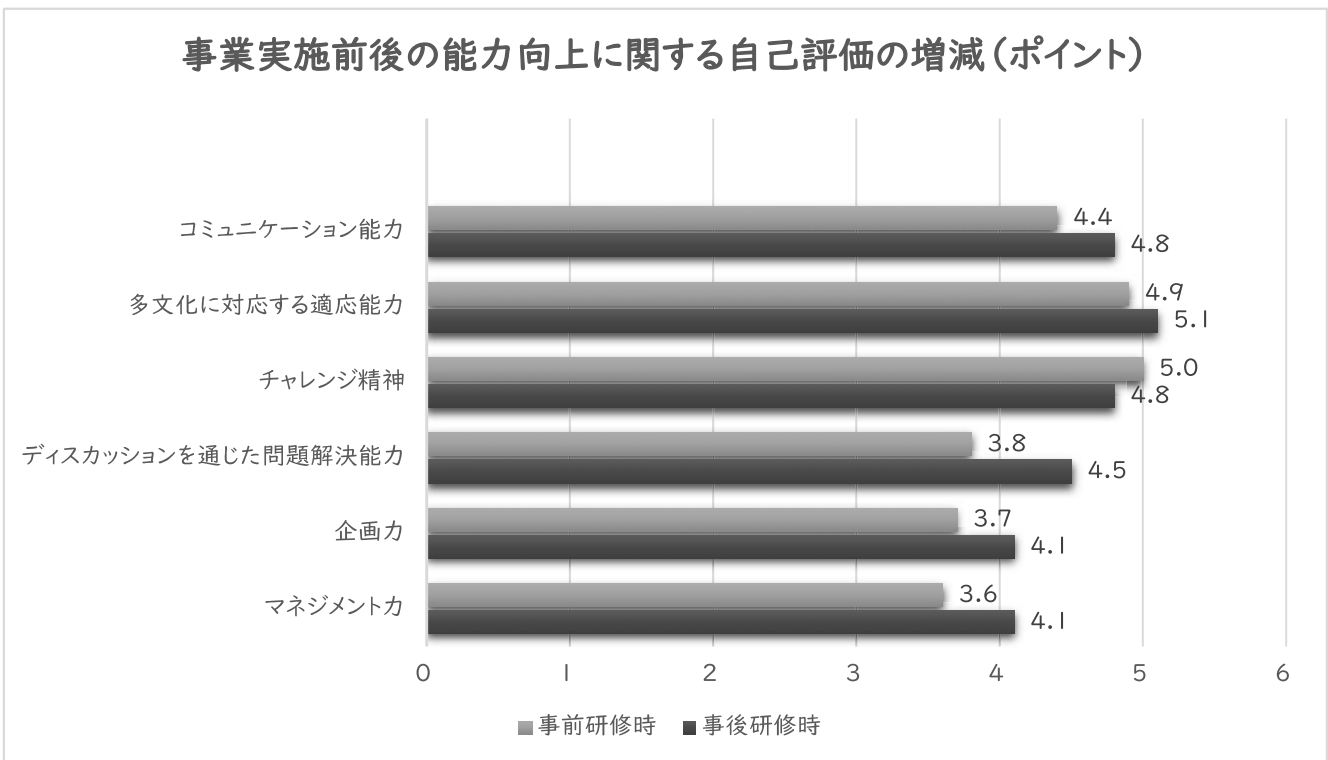
このことから、参加青年たちが自身を振り返り、互いに評価しコメントすることにより、考えの整理と次の一歩へのヒントを発見できた。

2. 日本参加青年の成長

① 個人の能力の向上

本事業の日本参加青年に対し、事前研修時と事後研修時での能力の成長の変化について6段階（6=十分備えている、5=備えている、4=ある程度備えている、3=あまり備えていない、2=備えていない、1=全く備えていない）による比較調査を行ったところ、次のような結果になった。

- ・「コミュニケーション能力」：
4.4 から 4.8 となり、0.4 ポイントの増。
 - ・「多文化に対応する適応能力」：
4.9 から 5.1 となり 0.2 ポイントの増。
 - ・「チャレンジ精神」：
5.0 から 4.8 となり 0.2 ポイントの減。
 - ・「ディスカッションを通じた問題解決能力」：
3.8 から 4.5 となり 0.7 ポイントの増。
 - ・「企画力」：
3.7 から 4.1 となり 0.4 ポイントの増。
 - ・「マネジメント力」：
3.6 から 4.1 となり 0.5 ポイントの増。
- (ポイント数については、小数第二位を四捨五入)



伸び幅が最も大きかったのは、「ディスカッションを通じた問題解決能力」であった。次点は「マネジメント力」「企画力」「コミュニケーション能力」であった。

「ディスカッションを通じた問題解決能力」の向上は、オンライン交流において、テーマ、サブテーマに沿いながら参加青年自らが設定したトピックに対し、日本参加青年及び外国参加青年が積極的にコミュニケーションを取りながら合意形成を図ったため向上したものと考察できる。

また、「マネジメント力」は、遠隔地にいながら、互いに時差を考慮に入れながら互いの意見に耳を傾け、意見をすり合わせる難しさや面白さを参加青年が経験したゆえ向上したと推察できる。

なお、アンケート結果にも表れていたが、外国参加青年の発想力や着眼点と、日本参加青年自身のそれらの差異にも大いに刺激を受けながら活動に取り組んだことから企画力が向上したと考察できる。その他の項目もおおむね上昇しており、本事業への参加が個人の

能力の向上に大きな影響を与えていることが分かる。

② 個人の意識の変化

本事業の日本参加青年に対し、事前研修時と事後研修時での意識の変化について6段階（6=非常にそう思う、5=そう思う、4=ややそう思う、3=あまりそう思わない、2=そう思わない、1=全くそう思わない）による比較調査を行ったところ、次のような結果になった。

- ・「今後、海外に留学してみたい。」：
5.6 から 5.3 となり、0.3 ポイントの減。
- ・「今後、海外で働いてみたい。」：
5.7 から 5.7 となり、増減なし。
- ・「国際的な仕事や仕事以外の活動（ボランティア等）に関わりたい。」：
5.7 から 5.6 となり、0.1 ポイントの減。
- ・「地域に貢献する仕事又は仕事以外の活動（ボランティア等）に携わりたい。」：
5.1 から 5.0 となり、0.1 ポイントの減。
- ・「仕事や仕事以外の活動（ボランティア等）において、

リーダーシップを発揮したい。」：

- 5.1 から 5.2 となり、0.1 ポイントの増。
 - ・「自分の言いたいことを英語又は他の言語で表現できるように勉強したい。」：
5.9 から 5.8 となり、0.1 ポイントの減。
 - ・「日本のことについてより理解を深めたい。」：
5.3 から 5.4 となり、0.1 ポイントの増。
- （ポイント数については、小数第二位を四捨五入）

今回の日本参加青年は、プログラムに参加する前からこれらの意識が高く、プログラムを通じて格別大きな上昇は見られなかった。「今後、海外留学してみたい。」との問いに対して、コロナ禍で先行きが不透明なことがおそらく影響し 0.3 ポイント減の結果となっている。一方で、「仕事や仕事以外の活動（ボランティア等）においてリーダーシップを発揮したい」との問いに対してポイントは増加している。本事業により、日本参加青年の社会貢献活動への意識により影響を与えていると考察できる。

事業実施前後の意識変化に関する自己評価の増減（ポイント）

